

会議要旨

会議の名称	令和5年度 第2回おいらせ町まち・ひと・しごと創生総合戦略会議	
日時	令和6年1月17日（水曜日）14時00分から 16時10分まで	
場所	おいらせ町役場本庁舎 庁議室	
出席者等	委員	<p>【出席者】（9人）</p> <p>平井 太郎（会長）、杉山 智明、柏崎 尚久、高田 雅史、中村 綱吉、志村 博、佐々木 秀智、佐々木 寿子、遠藤 剛</p> <p>【欠席者】（2人）</p> <p>中嶋 真理子（副会長）、森 美穂</p>
	事務局	<p>政策推進課</p> <p>課長 柏崎 勝徳、課長補佐 川原 真栄子、主任主査 馬場 祐二</p>
傍聴者数	0名	

1. 開会

※事務局の進行で開会。（14：00）

2. 会長あいさつ

年始の大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。一昨日ぐらいからまとまった雪が津軽地方にも降り、伺えるか心配していましたが、今日は暖気のため、道々の状態も良く、無事に到着することができました。年始から地震や様々な事故もあり、これから全国を挙げて被災地を支援させていただくこともあるかと思えます。そうした中で、今日はおいらせ町に軸足を置きまして、その未来を開くために皆さんからお知恵をいただきたいと思えます。

3. 案件

（1）第2期おいらせ町まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和4年度指標（KPI）の達成度について

案件に入る前に、今年度始めて会議に参加する出席者から自己紹介があった。

発言者	発言内容
事務局	<案件（1）第2期おいらせ町まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和4年度指標（KPI）の達成度について、会議資料2～5ページを説明>

平井会長	質問等はありませんか。
委員	なし
平井会長	目標値について確認があります。成果指標の目標値は、令和5年度までの目標値を設定しているのが適切かと思いますが、農業産出額と要介護認定率は令和4年度、健康寿命は令和3年度に設定している理由を教えてください。
事務局	現在の第2期総合戦略の計画期間は令和6年度までとなっています。次期総合戦略を令和6年度中に策定するため、全体的に計画期間最終年度から1年前の令和5年度の実績値を目標値として設定しています。その中で、農業産出額、要介護認定率、健康寿命は、国や県の公表値に合わせており、その公表時期の都合により、令和5年度以前の目標値となっています。
平井会長	総合戦略は、令和6年度までの計画期間に合わせて目標値を設定しなくてはなりませんが、多くの数値は令和6年度では確認できないため、前年度の令和5年度の数値を設定しています。さらに、農業算出額や要介護認定率等は、令和6年度でも令和5年度の数値が確認できないため、令和4年度以前の数値を使わざる負えないということになります。では、成果指標の中の百石高校の普通科出願倍率について、現状はどうなっていますか。
委員	百石高校の普通科は、40人学級の2クラスで合計80人です。1倍だと80人が応募したことになりますが、現状は80人に満たない状況です。県内の中学3年生の生徒が県立高校を全員受けても0.97倍にしかならない状況となっているので、百石高校普通科の出願倍率1倍を超えることは、なかなか難しいです。既に一次、二次の希望調査が発表されていますが、どうしても3市にある青森高校、弘前高校、八戸高校のいわゆるナンバースクールと呼ばれる高校に生徒の希望が集まっています。同じ市内でも1倍を切っている高校はありますが、八戸市、三沢市、十和田市に隣接しているおいらせ町や弘前市に隣接している平川市や黒石市にある高校は、さらに市内の高校に志望者をとられているため、倍率が下がっていると予想しています。百石高校には約300人の生徒がいますが、おいらせ町からの通学者は約40%、三沢市、十和田市、八戸市等の近隣市町村からの通学者は約60%となっています。私は百石高校がおいらせ町唯一の高校であり、県南の地域にも必要とされている高校だと認識していますし、またそのような学校であり続けたいと考えています。しかし、人口減少の影響もあり、今年は昨年よりも上北地域の中学校3年生の生徒数そのものが減少しているため、受験者数も減少していますが、成果指標にある百石高校普通科の出願倍率1倍は今後も目標値としていきたいです。明るい展望としては、おいらせ町は人口が増えている町でありますし、町内には教室が足りないくらい子どもたちが増えてきている小学校もあります。子どもたちが中学校に進んだときに百石高校が受入先、進学先になれるよう、高校存続に向けて、町とお互いに支援、協力し合っていきたいです。
委員	百石高校の進路状況はどうなっていますか。

委員	今年、自己開拓以外はほぼ全員進路が決まっています。令和4～5年度をみると約50%が進学、約50%が就職となっています。青森県の方でも、県内就職、地元定着を進めています。今年、百石高校の就職者のほぼ全員が青森県内の県南に就職することが決まっています。高校生の県内定着率が非常に低いと報道されていましたが、その県内定着率を引き上げているのは百石高校だと思います。進学の方は、4年制大学、短大、各種学校にバランスよく入っており、令和4、5年度には、国公立大学への合格実績もあります。町からは、百石高校の魅力アップ推進事業として、検定試験や資格試験への補助、進学に向けた支援をいただいています。
平井会長	前回の会議で、建設業等の地元の基礎を支える職業に人が集まらないという意見がありましたが、商工会等では何か働きかけを実施していますか。
委員	商工会では特に実施していませんが、建設業の協会だと工業高校や農業高校を対象に説明会や現場の見学会等を実施しています。基本的には工業高校の土木建築や電気関係の生徒を求めています。最近では普通高校にも求人を出している企業も増えてきています。
委員	工業高校も進学率が上がってきているため、就職希望者が減り、建設業や工業の人手不足の原因になっているように感じます。百石高校にも建設業や工業系の求人もきており、その分野に進む生徒もいます。百石高校の生徒数が増えれば、地元の建設業の人手不足解消につながるのかもしれない。
平井会長	もし、商工会や高校でもインターンシップのような職業体験を実施してみてもどうでしょうか。
委員	百石高校では、生徒に就労の経験値を積んでほしいということで、アルバイトを推奨しているところです。また長期の休みには、イオンモール下田をはじめ、様々なところで良い環境で生徒を受け入れてもらっています。生徒たちには、アルバイトを体験した後の振り返りを大切にしてもらうことで、地域貢献や就労意識を高めつつ、自身の職業適性の判断につながっています。
平井会長	そういった関係を継続してほしいです。他にありませんか。
委員	雇用の部分で、新規就農者、新規漁業就労者の方はどういった方なのかを教えてください。
事務局	新規就農者や新規漁業就労者は、家族や親族から仕事を継承している場合が多く、一度は町外や県外に出て、その後町に戻ってきた方が多いと伺っています。
委員	基本目標4の健康寿命について、青森県は一番の短命県で知られていますが、その中でおいらせ町の数値が伸びているのはすごいことだと思います。何か具体的な事を実施しているのかを教えてください。
事務局	現在町では、町内会などの地域を対象に100歳体操や介護予防教室を開催し、高齢者の健康づくりを支援しています。その結果から、総合戦略の成果指標である要介護認定率の達成度合いが「高」を維持しています。他に資料5ページにも関連しますが、働き世代への特定健康診査の実施等も効果があったと考えています。

平井会長	全県的な活動としては、40代や50代の現役世代が心疾患や脳疾患で亡くなることが多いので、運動不足の解消や塩分の取り過ぎの改善を働きかけています。そのため、特定健康診査の受診を呼びかけることは効果があるように思います。長野県と青森県の健康寿命を比較すると、30、40年前は一緒でしたが、長野県はとにかく保健協力員等と一緒に住民に健診を呼びかけて、必ず診察してもらうことを進めました。そこまでしないと数値の改善には繋がらないだろうと言われていました。大型商業施設や地元にあるスーパーでは、健診や健康増進に関する行事に参加した方に買い物ポイントを付与することをやっています。そして、家族間でそのポイントを共有、活用できることもやっているところもあります。おいらせ町はまだまだ若い方が多いですが、このような地の利を活かした事業を検討しても面白いと思います。
委員	おいらせ病院がイオンモールの近くに移転しますが、治療はおいらせ病院で、健康指導や栄養指導等の啓蒙の方をイオンモールで実施する等を行政と協力して取り組めたら、素晴らしいことなのかなと考えています。あとは、病院の医師の確保も難しいですが、看護師を確保することも難しいそうです。子育てをしている看護師の方も多いので、サポート面も含めて何か新しい取り組みができないかと考えています。
平井会長	病院と一体となって進めると働くスタッフも安心ですね。
委員	婚姻率について、4.2とありますが、これは100人いたら4.2人が結婚できたということでしょうか。町の数値だとしたら、社会的にどれぐらいの仕様になっているのでしょうか。
平井会長	これは人口1000人に対しての数値のため、%という単位で考えていただければと思います。
事務局	婚姻率は、青森県保健統計年報の数値を使用しています。算出方法は、おいらせ町の婚姻届け出件数を10月1日現在の町の人口で割って、1000倍した数値となります。
平井会長	婚姻率はずっと%という単位を使っているため、少し分かりにくいと思いますが、全国平均だと4.8くらいだと思います。これに関連しますが、少子化の原因の1つとして、初婚年齢が上がってきていることがあげられます。
委員	町に若い世帯が増えてきているような感覚があります。婚姻率ではなく、若い家族の世帯が町に増えていることが分かる指標の方が良いように思えます。
平井会長	似たような指標だと、生涯独身率を指標にしている市町村もあります。
委員	おいらせ町も生涯独身率等の数値が分かるのであれば、婚姻率よりも分かりやすい指標になるかと思います。
事務局	婚姻率について補足します。青森県の令和3年度の婚姻率の平均は3.1です。おいらせ町は上位5つの市町村に入ります。トップは東通村の5.0です。近隣の市町村だと三沢市が4.8と高いです。

委員	おいらせ町がまちの幸福度ランキングで1位になったとニュースなどで報道されています。この目標値に近づいた結果、過ごしやすいまち、暮らしやすいまち、幸せなまちとして反映され、町の人口につながっているのではないかと思います。
委員	青森県で自殺率が一番高いのがおいらせ町だという話を聞いたことがあります。幸福度が高いことと矛盾しているように感じますが、現状はどうなのでしょう。
事務局	おいらせ町の自殺率は、今は改善されていますが、過去には自殺率が県内1位になったこともあります。自殺率は、人口10万人あたりの数で算出している数値になります。おいらせ町は、大きい市と比較すると人数は少ないですが、数値が上がりやすい傾向にあります。
委員	先日、町から心の病を確認するアンケートが届いたのですが、皆さん回答されていますか。
事務局	働く世代に対して、5歳刻みで送付しているアンケートになります。回答がない場合は、町から連絡がいきます。
委員	おいらせ町には、心療内科はありますか。
事務局	心療内科が1件あります。
委員	達成度が低いからと言って悲観的になったり、負い目を感じたりする必要はないと思います。低い数値への対策、高い数値は継続できるように前向きに考えていけば良いと思います。
委員	空き家バンクを活用した世帯が少ないように感じています。令和3年も1世帯と少ないです。町に空き家は増えていると思いますが、なぜ少ないのか、どのような活動をしているのか、確認したいです。
事務局	町で実施している空き家バンクですが、昨年度の空き家物件の登録件数は10件程度です。おそらく町の空き家バンクに登録せず、個人で空き家を管理したり、不動産業者に直接依頼したりしている方も多いかと思われます。
委員	町内に空き家はたくさんあります。今年の4月から法律が改正され、相続登記をしなければならなくなりましたが、親族間での相続がスムーズに進まず、まだ相続が終わっていない空き家がとても多いです。また、住んではいないですが、仏壇だけは置いていて、1年に1回だけ人が戻ってきているという物件も多いです。このため、空き家バンクに登録までに至っていない物件がとても多いのではないかと思います。これまでは法律上、相続登記をしなくても罰せられることはありませんでした。その結果、日本に空き家、空き地が増え、荒れ果てて問題になっています。ようやく制度として、令和6年の4月から相続登記をしなければならなくなりましたが、猶予期間を与えるという文言が入っています。相続登記には、お金も発生することなので、すぐにこの問題が解決するとは思えないです。
平井会長	空き家バンク制度は、相続に限らず、建物や土地が登記されていないと利用できません。しかし、納税と登記は別々になりますので、納税はしていても登記をしていない場合が多いです。その理由としては、登記にかかる費用が出せない、誰に相談すれば良いか分からないという方が多いです。県内でも空き家バンク登録数が増えていない市町村も多いですが、市町村で登記費用の補助や相談先の斡旋などを実施することで、解決につながります。

事務局	現在の町の空き家バンクは、空き家を出したい方が登録し、町のお墨付きを受けた形で物件を町のホームページで公開しています。その後、物件が欲しい方から連絡があれば、所有者や不動産業者と交渉するように調整しています。登記や物件の取引の斡旋等は資格が必要なため、町で実施していませんが、固定資産税の納付書を町民に送付する際に、空き家バンクの登録のお知らせを同封しています。
委員	空き家物件が割安かどうかは、本人同士で話し合ってみないと分からないということですか。
事務局	そうです。所有者と希望者同士の話し合いになります。
平井会長	全国的な話で言えば、日本の中古物件は水回り、断熱を入れ替えないと住めないことが多いです。その場合、高額な費用がかかるため、マッチングが上手くいかないこともあり、中古物件の改修に補助金を出している市町村もあります。もっと分かりやすい指標にしても良いのではないかという意見もありましたので、次期戦略策定の際に検討していただきたいと思います。

(2) おいらせラボについて	
発言者	発言内容
事務局	<案件(2) おいらせラボについて、会議資料6ページを説明>
平井会長	これからのおいらせ町の発展には、住民の皆さんや事業者の皆さんからの後押しや協力がなければなりません。皆さん自身が、これはやるべきだと思われることを町と一緒にあって応援していく、そういう体制をつくっていければと思います。おいらせラボでは、今紹介したテーマで研究、提案を行い、かたちにしていきます。詳しくは今日のその他で、おいらせラボの部員から説明がありますので、皆さんと共有したいと思っています。質問等はありませんか。
委員一同	なし

(3) 今後のスケジュール	
発言者	発言内容
事務局	<案件(3) 今後のスケジュールについて、会議資料6ページを説明>
平井会長	質問等はありませんか。
委員一同	なし

4. その他

(1) 地方創生に関する事例調査等の報告（おいらセラボ部員）

発言者	発言内容
平井会長	おいらセラボでは、おいらせ町の更なる発展に向け、調査や研究を行っています。今回は、部員の皆さんに地方創生に関する事例調査をまとめてきてもらいましたので、一人ずつ報告してもらいます。今日の目的は、おいらセラボの活動紹介です。今後は半年ぐらいをかけて、事業のブラッシュアップを進めていきますので、まずは皆さんに事業提案の紹介するところから始めたいと思います。
おいらセラボ部員	「公園管理事例」「ごみの資源化事例」「DV シェルターの事例」「おいらせ住みよい街 OKproject」について説明。
平井会長	今回紹介した提案については、おいらセラボでディスカッションを進めていきます。今後皆さんの方にも情報提供していきますので、その際はご意見等をいただきたいと思います。今日はありがとうございました。
事務局	その他、何かありませんか。
委員一同	なし

5. 閉会

※閉会する。(16:10)